



同窓会活動に思うこと



同窓会長 矢嶋 英敏

昭和51年度 英語英文学科 卒業

■ 武将 柳生宗矩は・・・

柳生宗矩は、江戸時代初期の剣術家で柳生心陰流の地位を築いたと言われている。彼が残したと言われている言葉に次のような言葉がある。

小才は、縁に逢って縁に気付かず
中才は、縁に気付いて縁を活かさず
大才は、袖触れあう他生の縁もこれを活かす

長い人生の中で、様々な方と出会う。その出会いを、大才のように活かすことはできないまでも、その出会いは「一生のうちに逢うべき人に必ず逢える。しかも、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に」(森信三)の言葉から教えられる出会いとして活かしたいと、常々思ってきた。同窓会活動での出会いというのは、まさにそうした出会いだと思っている。

会長職を拝命してから今日までの1年半は、新型コロナ問題で活動に制限が強いられてきた。そうした中であっても、各委員会では例年以上の取組ができるよう工夫・改善に努めていただいた。全くのボランティアでの活動にも関わらず、よりよいものを求めて取り組まれる姿に私自身も多くを学んできた。

■ 教育とは流れる水に・・・

教育とは、流れる水に文字を書くような果てない仕事です。しかし、それをあたかも巖壁にノミで刻みつけるほどの真剣さで取り組まなければなりません。教員がおのれ自身、赤々と生命の火を燃やさずにいてどうして生徒の心に点火できますか。教育とは、それほどに厳粛で崇高な仕事なのです。

これは森信三(教育学者)の言葉である。勿論、教育の世界に限らずどの職であっても「崇高な使命や責任」がある。しかし、「将来を担う子どもたちを教え・導くことの尊さ」や「教師の言動が子どもたちに与える影響」等、「教育に携わることの崇高さ」「教育がもつ使命」は、誰もが共感することではないだろうか。

昨今、教員の勤務について「ブラック部活」という言葉に代表されるように様々な議論がなされ、その見直しが図られようとしている。昔から「教員の仕事に

は際限がない」「よりよい教育をしようとすればするほど終わりが見えなくなる」と言われてきた。学校だけでなくどの職場においても、心にゆとりをもち健康的に勤められることは大切なことだ。しかし、そうした「ゆとり」の中で「緩み」になったり「楽をする・手抜きをすること」だと勘違いをしてしまったりしてはいけないう。ある一時期には徹して取り組み、自らの教育観や指導観を磨くことも必要だと思う。人生には、そうした「バランス感覚」が不可欠だと、私は思っている。

■ 2024年 教育学部同窓会 150周年

岐阜大学教育学部HPに「明治6年に大垣旧藩庁を校舎として師範研修学校を創設(明治8年に「岐阜師範学校と改称」)」とある。改めて歴史の重みを感じた。

私が岐阜大学教育学部に入学した昭和48年当時、教育学部の校舎は長良の地、他の学部は各務原市や岐阜市司町にあり、昭和58年に現在の地に統合移転された。

母校の姿は年月の経過とともに変わっていくが、根底に流れる精神は不変のものであろう。同窓会150周年は通過点である。未来に亘ってこの組織が受け継がれていくことを心から願う。

■ 新しい同窓会名簿管理システム後に

今回お送りした資料にも案内がされているが、同窓会名簿管理システムが新しくなる。「さて、私は自分自身の情報を登録していただろうか」と、この7月にサイトにアクセスした。ところがIDもPWもすっかり忘れていてアクセスできず、事務局に問い合わせた。登録されていた情報は、9年ほど前の情報だった。更新ついでに当時の同窓生の情報を検索してみた。今の若い方は、卒業時にSNS等で繋がりができているが、私たちの世代は、同窓会に出なくなったら関係が途切れてしまうことが多い。一部には既にお亡くなりになったことが表示された方もあった。情報の一部は非公開にしたりするなどの制限を設定することもできる。是非ともこの機会に最新の情報を登録いただけると幸いです。

岐阜県を中心とした地域の子どものための教育を支えるために



教育学部長 山田 雅博

本年4月より、岐阜大学教育学部長・教育学研究科長を拝命いたしました、山田雅博と申します。大変不慣れではありますが、教育学部同窓会の皆様方と力を合わせ、岐阜県を中心とした地域の子どものための教育を支えるために、微力ながら取り組んで行く所存でございます。また、これまで同窓会の皆様方には、日頃より多くの点でお世話になっていること、この場を借りて改めて御礼申し上げます。本稿においては、これまでの教育学部・教育学研究科における取り組みと、今後の課題についてご報告させていただきます。

岐阜県を中心とした地域の子どものための教育を支えるために

教育学部・教育学研究科は、岐阜県を中心とする地域の子どものための教育を支えるために、岐阜県の教員養成・研修機能の中心的役割を担うことを使命としています。そのため特に、小学校・中学校・特別支援学校において誇りをもって働く質の高い教員を養成し、教員となられた後の研修やサポート等を行うことは教育学部の重要な役割となっております。また、教育学研究科においては、学部卒の大学院生の教育も含め、リカレント教育やスクールカウンセラー等の養成も大変重要なミッションであると考えております。これらの重要な役割を果たすために、同窓会の皆様方から大変温かいご協力・ご指導を頂いていること、重ねて御礼申し上げます。

(1) 教員就職率の向上に向けて

教育学部は、令和3年度より後期日程入試を廃止し、「ぎふ清流入試」(岐阜県の教員になることを個別・集団面接で確認した上での入試)における募集定員を拡充させ、さらに前期日程入試受験者全員に対する面接導入(令和3年度入試においては新型コロナのため未実施)という改革を行いました。これにより、数年後には学部教員就職率(卒業生から進学者及び保育士を除く)の向上が見込まれると考えています。当然ながら、数値を上げることだけが全て

ではなく、質の高い教員の養成についても求められているところであります。しかし、教育学部の中長期ビジョンにおける「教育・人材育成」で示した重点指標の「教員就職率」の向上は常に問われ続けるものであり、この数値を向上させていくことは学部の大きな命題であると受け止めています。今後は、これらの入試改革に加え、学部の教育内容の見直し(入学後のカリキュラム・実習体制・授業の在り方等)、及び進路指導の拡充(入学後から4年次の教員採用試験までの指導・教員採用試験後のフォローアップ等)について議論し、充実を図っていきます。

(2) 教職サポート室の充実について

上記(1)の取り組みに加えて、教育実習から教員採用試験までの一貫した学生支援を行うために、令和2年度に校長を経験された先生方4名による教職サポート室を新たに設置しました。さらに、令和3年度には教職サポート室と教育学部の教員をメンバーとする教職サポート委員会を立ち上げました。これにより、教育学部の学生に対する進路指導体制のより一層の強化を図りました。その上で、時機に応じて、3年次の教育実習前後に教職の魅力を伝えるためのガイダンス等を複数回実施したり、岐阜県内で活躍されている若い先生に講話をお願いしたりなど、教職サポート室の先生方と教育学部の教員が協働して学部学生の進路指導を行い、かなりの効果を上げつつあります。また令和3年度より、教員採用試験で不合格となった学生に対して、早期かつ積極的に個別指導等を実施し、臨時的任用職員(常勤講師)登録を促す取り組みを開始しています。

(3) 岐阜県内での実習の拡充について

教育学部では、岐阜県内全域で学生が複数年にわたって同一校で行う実習(ACTプラン改善モデル)を実施しています。具体的には、令和2年度に岐阜県教育委員会及び県内の21市町教育委員会と連携して教育実習協力校の数を従前の2倍程度に増やしました。この取り組みは、単に教育実習協力校の数を増やしたのみではなく、教育実習協力校との連絡体制を強化し、学部全体で教育実習協力校との連絡等を

行う学部担当教員を配置し、学生指導の強化・充実を目指したものです。そして、学部学生ができる限り出身地域の学校で実習ができるような体制を整備し、地域と教育学部とが連携して次世代の教員を養成していくという理念に基づいた取り組みです。

これらの県内全域における実習では、2年生対象の実習である教職リサーチ、3年生対象の実習である教職プラクティスを同一校で実施する体制としました。令和3年度に学生を対象に実施したアンケート調査では、ACTプラン改善モデルについて学生の約8割が肯定的に評価しており、また教育実習協力校への聴き取り調査においても学校側から高い評価を受けています。

(4) 大学院教育学研究科の充実について

令和3年度までの大学院教育学研究科は、教職実践開発専攻(教職大学院)、総合教科教育専攻(修士課程)、心理発達支援専攻(修士課程)の3専攻からなっていました。近年は、教科領域についての学修二一ズの高まりや有識者会議報告書により、国立教員養成系学部・単科の全国44大学において修士課程は原則、教職大学院へ移行することが求められました。本研究科でもこれらの動きに早急に対応するため、令和4年度より全10教科の教科領域を教職大学院に設置し、教科領域を含んだ教職実践開発専攻(教職大学院)と、地域から強い要望のあるスクールカウンセラーの養成を行う教育臨床心理学専攻(修士課程)の2専攻へと教育学研究科の充実を行いました。

教職大学院は、単に教育現場において実践を行う場ではありません。特に、教科領域においては、将来

に教員となる大学院生自身が教科等の指導内容に関する高度な知識を身に付け、それを土台として指導法を展開する能力を養成する事が重要であると考えています。その考えを基本として、教職大学院におけるカリキュラムを編成いたしました。これらの充実に伴い、専門職学位課程は教員養成に、教育臨床心理学専攻(修士課程)は非教員養成にとその役割を分化し、専門職学位課程においては、より高度な教員養成を行っていきます。

(5) 附属小中学校のカリキュラム開発について

教育学部附属学校は、令和2年度より9年一貫の義務教育学校となりました。それに伴い、名称を附属小中学校と改めました。義務教育学校においては、カリキュラム(教育課程)づくりの難しさがあります。附属小中学校のカリキュラムについては、9年一貫の学校カリキュラムの創造のため、教育学部の教員と協働して研究・開発を行っています。令和4年度からは、その協働の体制をより一層強化していきます。

今年度より、国立大学法人は第4期中期目標期間に入りました。岐阜大学教育学部・教育学研究科は、卒業された同窓会の皆様方と力を合わせて教員及び専門職業人(スクールカウンセラー等)の養成に取り組み、岐阜県を中心とした地域の子どもの教育を支えていく所存です。今後ともどうか温かいご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

大学からの お知らせ！

岐阜大学校友会が10月1日に発足しました

岐阜大学校友会は、卒業生、在学生、後援会員および教職員が相互に交流・連携を深め、岐阜大学の取り組みを支援することにより、岐阜大学の発展および社会貢献に資することを目的として、本年10月1日に発足しました。

校友会の主な活動は、岐阜大学の最新情報の発信、ホームカミングデー等のイベントの開催などになります。

入会費は無料で、校友会から発信される岐阜大学の最新情報等を受け取りたい場合には「校友会ホームページ」の「Twitter・メールマガジン」ボタンからメールマガジンの申し込みを行ってください。

事業内容

情報発信事業：岐阜大学公式 Twitter のフォロワー拡大、メールマガジンの発信等

交流・連携に寄与する事業：ホームカミングデーの実施

大学の取り組みを支援する事業：大学支援型コミュニティ形成の支援

同窓会等活動支援及び連携事業：SNSの活用支援、アドバイザーボードでの意見聴取

その他：在学生に対する「母校愛」の醸成

詳しくは「校友会ホームページ」をご覧ください。
https://www.gifu-u.ac.jp/about/approach/koyu_top.html



教職サポート室の取組

～一人でも多くの学生を教員に～

【教育指導員】

教育実習係：深尾雅人・大野裕子

教員採用係：高橋和子・末松豊生

令和5年度採用教員採用選考試験受験状況

(下記数値は、教職サポート室が実施する「学習会」参加者：人)

	4年生				院生	合計
	岐阜県	愛知県	名古屋市	その他		
小学校	55	15	3	4	1	78
中学校	37	9	5	5	2	58
高等学校	8	2	1	7		18
特別支援学校	9	3				12
計	109	29	9	16	3	166

教員志望者の教育学部生のほとんどは「学習会」に参加しています。しかし、学部生全体の受験者数の比率は、例年6割余り(今年度65.%, 昨年度63.6%)となっています。公務員、一般企業に約3割が進んでいるのが現状です。教職サポート室と大学が連携・協力しながら、一人でも多くの学生が、やりがいと使命感を持って教員をめざしてくれるよう、サポートをしていきます。

教育実習係

教育実習等に係る学生への指導及び教育実習協力校・関係市町教育委員会との連携・調整

実習校が増えたことに関して

令和2年度から、県内多くの市町で実習協力校を設定いただき、出身地に近い場所での教育実習「故郷実習」を実施しています。故郷での実習は概ね良好な反応を得ています。一方、岐阜市内及びJR沿線の実習協力校においては、他県出身者の割合がかなり多いことから、学生の配置については改善の余地があると感じています。

増えたことにより実習係として学生の指導に関して変化したこと

- ・県内各地の実習協力校にできる限り足を運び、学生の活動の様子や思い、実習協力校の思い等を把握することに力を入れています。実際に見聞きしたことは、よりよい形で学生に還元するとともに、教育実習自体の改善にもつなげています。
- ・事前・事後指導等で、地元の先生方の熱い思いを伝えられるようになりました。

自分が育った地元での実習に関するコメント

- ・「地元へ戻っておいでよ。」と声をかけていただけて、意欲が高まった。
- ・昔お世話になった先生に再会し、勇気もらった。頑張りたい。
- ・家から通え、環境にも慣れているので、安心して実習に集中できている。
- ・地元の学生に来てもらえて、実習指導のやり甲斐を感じる。(教職員の声)

【実習協力校の校数】

全県：小	27	中	27
岐阜：小	16	中	16
西濃：小	3	中	3
美濃：小	2	中	2
可茂：小	2	中	2
東濃：小	3	中	2
飛騨：小	1	中	2



〈チーム岐阜大学〉

教育採用係

教員を志す学生への進路相談及び教員採用選考試験のための「学習会」の実施と指導・助言

教員採用試験の現状と対応

教員採用試験の倍率が右肩下がりの状況の中、志願者数確保や教員の質の担保のため、試験内容等も年度ごとに変わっています。例えば、岐阜県においては、中学校志望者で小免を有する者や、小学校志望者で「数学」「理科」「英語」「特別支援」の免許を有する者には加点があります。また、今年度から小学校の実技試験がなくなり、代わって「道徳」の模擬授業が実施されました。学生の不安を少しでも軽減するために、学習会で「道徳の授業の進め方」「道徳の模擬授業」を行い、第二次試験に備えました。

なお、採用試験対策の一環として、岐阜大学教育学部同窓会の皆様に、個人模擬面接の面接官としてご指導・ご助言をいただきました。今後とも、同窓会の皆様のご協力のもと、「学習会」の一層の充実を図っていきます。

「二次試験を終えて」

教員採用試験を乗り越えることができたのは、学習会での学びや練習、学科やグループの仲間との練習があったからです。また、学習会では、合格に向けてのサポートだけではなく、教師としての素地、社会人として大切なことも多く学ぶことができました。これからの教員生活にもぜひ生かしていきたいです。(社会教育講座4年生)



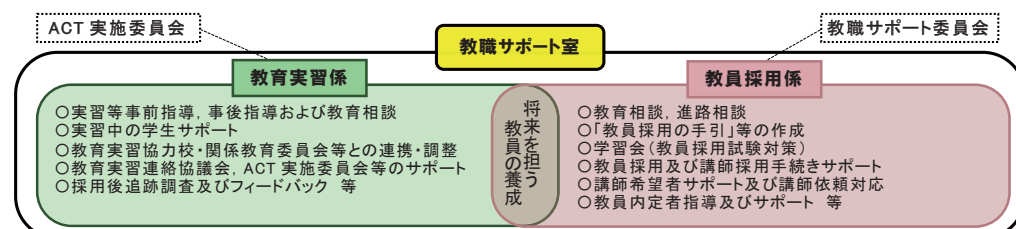
〈教職スタートガイダンス〉



〈個人面接指導の様子〉

教職サポート室の体制

学生の4年間のサポートをより効果的かつ組織的に行うため、昨年度、「ACT支援室」と「進路相談室」を統合し、「教職サポート室」として新たな体制でスタートしています。



令和4年度 岐阜大学教育学部同窓会役員

役員

会長	矢嶋 英敏	S51 英語
副会長	高橋 忠明	S48 技術
	清水 優子	S50 家政
	原 尚	S53 体育
	村瀬康一郎	S53 数学
総務部会	◎ 村瀬康一郎	S53 数学
	○ 菱川 洋介	H16 数学
	高橋 和子	S49 美術
	森 社	S51 化学
組織部会	◎ 和合 保	S54 数学
	○ 興戸 律子	S54 数学
	河合 鋭夫	S52 技術
	◎ 末松 豊生	S54 教育
事業部会	○ 大塚 弘士	S54 史学
	森 透	S55 地学
	松井 徹	S56 数学
	北村 直子	S55 国語
	深尾 雅人	S57 英語
	河井 洋子	S57 家政
	服部 公彦	S57 化学
	◎ 鈴木 祥隆	H22 特支
広報部会	○ 今井 亜湖	H 8 技術
	古田 信宏	S54 教育
	宮川 誠	S56 美術
	長村 覚	S57 国語
	今井 正代	S57 数学
	鷲野 善仁	S53 体育
監査	長島 清司	S54 数学
	市原 輝明	S51 哲学

◎部会長 ○副部会長

評議員

国文	遠山 健二	S62
	吉永 康昭	H5
	富山 哲成	H8
	大前 剛士	H16
	丹下 侑輝	H19
史学	高木 敏彦	S48
	武藤 貞昭	S49
	川部 誠	S52
	養島 一美	S54
	國枝 孝治	S58
地理	小林 直樹	S50
	堀江 秀樹	S58
	吉野 光浩	S59
	各務 至	H4
	新井 恒雄	H6
法経	村井 俊之	S56
	横田 稔	S57
	丸山 靖生	H3
	日比野 崇	H16
	古川 徹	H19
哲学	近藤 新八	S43
	柘植 卓伸	S52
	國定 幸敏	S53
	榎井 奈津子	H 元
	奥村 直也	H5
数学	瀬瀬 政昭	S48
	中川 敏之	S50
	日置 貢	S53
	熊崎 盛敏	S55
	名取 康夫	S57
物理	奥田 好紀	S56
	丹羽 直正	S58
	堀部 昇	S61
	市原 隆行	H2
	竹腰 宣行	H3
化学	白木 和雄	S59
	酒井 茂	S61
	田辺 美樹	S61
	富西 祐治	S63
	浅野 竜也	H3
生物	安藤 志郎	S43
	井上 好章	S53
	可児 美紀	H7
	渡辺 寛樹	H9
	細江 達三	H18
地学	森 透	S55
	浅野 和哉	S56
	古田 靖志	S58
	武藤 正典	H11
	澤村 秀彦	H14
音楽	棚橋 弘	S48
	丸山 真姫	S59
	杉本 公彦	S61
	中村 美雪	S63
	西脇ひろみ	H 3
美術	竹市 安彦	S49
	川出恵美子	S53
	鬼頭 立城	S60
	笠嶋 誠	H 2
	清水 也人	H 7
体育	野原 正美	S55
	清水 康孝	S59
	中村 俊彦	S61
	野原 徹二	H 元
	高橋 茂洋	H 6
技職	伏屋 敬介	S45
	高橋 忠明	S48
	清水 茂樹	S58
	吉田 竹虎	S62
	淀川 雅夫	H7
家政	清水 優子	S50
	河井 洋子	S57
	山下 絵美	H15
	小林 明奈	H16
	坂 真紀	H17
英語	深尾 雅人	S57
	高橋 清仁	S58
	服部 照	S58
	山下 敦子	S60
	酒井 猛	S63
教育	安田 和夫	S53
	柳川 禎章	S53
	神谷 弘子	S53
	松井みどり	S54
	江崎 麻美	S61
師範男子	宮脇 修	S24
青年師範	石田 幸彦	S24
	今井 昌喜	S25
	服部 真六	S26

理事

国文	曾我部領史	H8
史学	武藤 貞昭	S49
地理	豊島 博	S58
法経	清水 泰浩	H2
哲学	谷本 龍馬	S50
数学	中村 昌秀	S49
物理	鈴木 雅史	S50
化学	服部 公彦	S57
生物	金子 伴和	S52
地学	岩田 将之	S48
音楽	棚橋 弘	S48
美術	竹市 安彦	S49
体育	田口 機子	S40
技職	伏屋 敬介	S45
家政	杉山 恵子	S48
英語	高橋 清仁	S58
教育	古田 信宏	S54
師範男子	宮脇 修	S24
青年師範	石田 幸彦	S24
	服部 真六	S26

(令和4年6月11日現在)

令和4年度 岐阜大学教育学部同窓会理事会・評議会報告

日時 令和4年6月11日(土) 10時00分から
場所 教育学部本館7階 第一会議室
出席者等 評議員・理事・役員 119名(内委任状出席75名)
会議 議事については、議長として高木敏彦氏を選出し、以下の事項について審議した。

① 令和3年度事業報告

村瀬総務部会長、和合組織部会長、末松事業部会長、鈴木広報部会長から資料に基づき報告があった。

② 令和3年度決算報告

村瀬総務部会長から3年度の会計決算報告があった。

③ 会計監査報告

長島会計監査から、会計監査の結果、予算の執行管理等適切に行われている旨の報告があった。

④ 事業報告及び決算の承認

審議の結果、報告の通り3年度事業と決算が承認された。

⑤ 次期同窓会長候補者推挙委員の選出

次期同窓会長選出について、会則に則り会長候補者推挙委員の選出を行うこととした。投票結果として、

高橋忠明氏、高木敏彦氏、小林直樹氏、瀬瀬政昭

氏、熊崎盛敏氏を選出した。

⑥ 令和4年度事業計画

村瀬総務部会長、和合組織部会長、末松事業部会長、鈴木広報部会長から各部の事業計画の提案がなされた。

⑦ 令和4年度予算審議

村瀬総務部会長から、4年度予算についての提案がなされた。

⑧ 事業計画案及び予算案の承認

審議の結果、令和4年度の事業計画と予算を承認した。

⑨ その他

令和3年度 教育学部同窓会活動報告

月	総務部会 等	組織部会	事業部会	広報部会
4	7 入学式 ● 監査(書面)	● 役員変更状況確認	● 第36集印刷開始 ● 教育研修課との打合せ ● 臨時部会；数回	
5	22 運営委員会		● 第36集発刊 ● 第36集に係る教育研修課への依頼 18 第36集配布作業	
6	● 理事会・評議会(書面)		● 教育事務所長会, 県小中校長会役員会に協力依頼 ● 県教委へ後援申請	● 第1回部会(書面) (担当分担, 細部打合せ)
7		● 会費未納者再請求 ● 1年生IDパスワード配布	● 県教職員互助会へ助成金申請	● 担当者より会報の原稿の作成依頼
8	● 拡大運営委員会中止			
9				● 印刷業者の選定
10			● 教育事務所訪問 ● 総合教育センター長訪問	● レイアウト, 挿絵, 配置など ● 第2回部会編集会議(書面)
11			● 審査依頼；都市教育長会長, 町村教育長会長, 県小中校長会長, 同小校長会長, 同中校長会長	● 会報の原稿の校正(初校) ● 会報の原稿の校正(2校)
12		● 会費未納者再請求		● 同窓会報第27号発行・発送
1	● 拡大運営委員会中止			
2			● 論文概要入手, 予備審査, 最終審査資料作成	
3	25 卒業・修了生に記念品贈呈		2 第二次審査会 10 最終審査会 ● 第37集発刊手続き開始	

令和3年度教育学部同窓会決算報告

●一般会計

<収入の部>		科目	決算金額
		前年度繰越金	2,326,630
		同窓会費	7,230,000
		雑収入	19
		合計	9,556,649
<支出の部>		科目	決算金額
		運営費	1,536,129
		庶務費	1,396,000
		事務管理費	111,535
		役員会費	14,344
		通信費	14,250
		渉外・交通費	0
		組織活動費	1,073,389
		名簿管理費	936,054
		名簿作成助成費	0
		同窓会入会式費	137,335
		学部援助費	417,000
		事務援助費	357,000
		教育文化助成費	60,000
		事業活動費	607,138
		成果刊行費	465,630
		会議費	125,000
		事務費	16,508
		広報活動費	2,433,767
		印刷費	1,267,743
		通信費	1,166,024
		次年度繰越金	3,489,226
		合計	9,556,649

●事業活動基金

<収入の部>		科目	決算金額
		前年度繰越金	38,744,453
		利息	2,704
		合計	38,747,157
<支出の部>		科目	決算金額
		貸金庫料	8,800
		次年度繰越金	38,738,357
		合計	38,747,157

●教育実践事業基金

<収入の部>		科目	決算金額
		前年度繰越金	2,410,020
		利息	5
		寄付金	300,000
		合計	2,710,025
<支出の部>		科目	決算金額
		教育実践論文顕彰費	422,000
		次年度繰越金	2,288,025
		合計	2,710,025

令和4年6月11日 評議会で承認済み。

令和3年度(第37回) 教育実践研究助成事業の報告

事業部会長 末松 豊生

昭和54年度 学校教育 卒業

1 はじめに

令和3年4月、新型コロナウイルス感染症は治まるどころか、変異株による感染が拡大し、第4波が襲来。さらには、第5波、第6波と続き、学校現場も大きな影響を被った。昨年度に引き続き、極めて厳しい状況の中での募集となった。

応募数がここ数年減少傾向にあっただけに、令和3年度はさらに減少するのではないかと危惧をしていたところ、応募者数で前年度を大きく上回ることであった。「働き方改革」のさらなる推進と相まって厳しい状況であるにもかかわらず、強い問題意識や思いをもって教育実践に取り組まれていることに心から敬意を表したい。

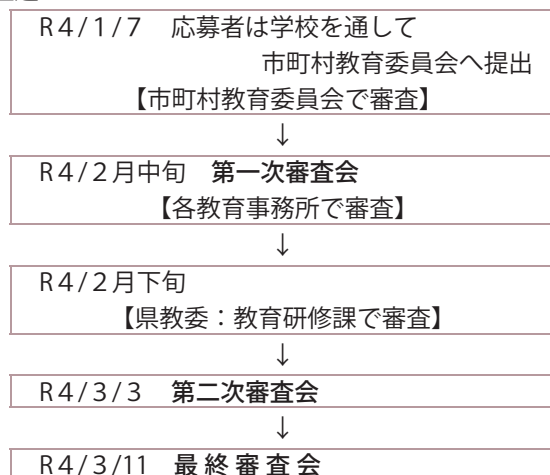
2 応募状況と傾向

応募総数：821人(前年度628人)

- ・オミクロン株の流行に伴い、学校閉鎖等が行われるなど、学校現場はその対応に追われた。にもかかわらず、応募者総数が昨年度より193人増となったことに安堵するとともに、自己研鑽に励む先生方の熱意や使命感を強く感じた。
- ・20代・30代の募集が全体の約83%を占めている。若手教員の指導力向上への意識の高さを感じる。
- ・事務職員の応募が例年より多かった。中でも、大垣市立西部中学校の桑原昌夫主査の論文は、学校管理運営の面から喫緊の課題に継続的に取り組んだ価値ある実践で、「特別賞」となった。

3 審査会の報告

(1) 経過



(2) 審査の観点

- ①教育の今日的な課題を踏まえ、解決の方向が明確になっているか。
- ②願う子どもの姿、指導意図、指導方法等は明確になっているか。
- ③児童生徒の成長や変容の姿がよく現れているか。
- ④研究及び実践内容に創造性・妥当性が見られ、説得力のある論文であるか。

(3) 令和3年度「最優秀賞」

山県市立高富中学校 教諭 小谷 公也

「人権が尊重される社会づくりに向けて
行動しようとする生徒」

～いじめ問題を核とした実践的な行動力の育成を通して～

- ※学級担任のカリキュラム・マネジメントにより、学級活動や道徳、総合的な学習の時間等を相互に関連付け、意図的・計画的に取り組んだ実践である。
- ※全国学力・学習状況調査から生徒の実態を分析し、人権教育で培いたい力を主体的に自覚できるよう位置付け、実践の基盤となるよう指導方法を工夫している。
- ※人権感覚を磨こうとする生徒の成長や変容が具体的に捉えられており、広げたい心に響く実践である。

4 今後に向けて（最終審査会から）

- ・テーマが妥当で、分析が明確になり、読みやすい論文が多くあった。今後も大いに期待したい。
- ・ICTの活用にかかわっては、ICTを活用する上で期待する効果や児童生徒にとっての利点等、活用の意図や方法、活用の成果を明確にすることを大切にしたい。
- ・管理職、事務職員等の参画に配慮できるよう、論文のジャンル分け、観点・項目にかかわる文言の変更を検討する必要がある。

※令和4年度の募集から、「審査の観点」の「児童生徒(子ども)」を「教職員」に置き換えることができたこととした。
(令和4年度「実施要綱」等参照)



ハイブリット方式による最終審査会の様子



岐阜県小中学校 教育実践研究論文受賞者一覧

最優秀賞（1編）			
山県市立高富中	小谷 公也	人権が尊重される社会づくりに向けて行動しようとする生徒 ～いじめ問題を核とした実践的な行動力の育成を通して～	< 人権教育 >

特別賞（1編）			
大垣市立西部中	桑原 昌夫	情報資源の可視化を通じた働き方改革の推進 ～事務職員の専門性を生かした校務運営の参画と職員の意識改革～	< 管理経営 >

優秀賞（9編）			
岐阜市立長良東小	前田 拓也	自己課題を自覚し、理解と習得の差を修正しながら、伝えたいことを明確にして話す力が育つ国語科学習	< 国語 >
瑞穂市立穂積中	奥村 紀子	相談室登校運営の在り方 ～不登校から脱し、教室復帰するための生徒の支援と教職員への働きかけ～	< 教育相談 >
大垣市立西部中	桑原 昌夫	情報資源の可視化を通じた働き方改革の推進 ～事務職員の専門性を生かした校務運営の参画と職員の意識改革～	< 管理経営 >
関ヶ原町立関ヶ原小	衣斐 優	ICTを効果的に活用し、自らの学びを創り出すことができる子の育成	< 情報教育 >
関市立南ヶ丘小	田中 みな子	主体的に音楽の美しさを求め続ける子 ～一人一台タブレット端末を活用した授業の実践～	< 音楽 >
美濃加茂市立太田小	高橋 優一	よりよい社会の実現をめざす子が育つ社会科学習 ～子どもが社会とつながる授業を通して～	< 社会 >
多治見市立精華小	土松 拓生	社会科を主体的・対話的に学び続けようとする児童の育成 ～新しい学力『学び続ける力』の涵養を目指して～	< 社会 >
恵那市立恵那西中	小栗 研	よりよい動きを追い求め、仲間と共に迫り続ける生徒の育成 ～確かな技能を身に付け、「勝利に貢献したい」と願いをもって取り組めるバレーボールの実践～	< 保健体育 >
飛騨市立神岡小	鈴村 奈津子	仲間と積極的に関わり、たくましく豊かに生きる子どもの育成 ～難聴児が語彙を豊かにし、自分の考えや気持ちを伝える力を育む支援を通して～	< 特別支援 >

優良賞（40編）※主題・副題は省略して紹介します。									
岐阜市立長良小	栗原 秀雄	算数	大垣市立東中	押谷 一衛	数学	御嵩町立伏見小	岩本 航	情報教育	
岐阜市立加納中	加藤 祐輝	国語	海津市立東江小	下田 郁代	算数	多治見市立精華小	大薦 康司	算数	
岐阜市立藍川中	松村 祐汰	理科	海津市立海西小	稲垣 さや	健康安全	土岐市立肥田小	足立 佳美	その他	
岐阜市立陽南中	松本 将史	数学	神戸町立南平野小	増田 美穂子	健康安全	瑞浪市立瑞浪小	小山 紀子	社会	
岐阜市立陽南中	水端 俊	社会	神戸町立神戸中	宮川 景行	技術家庭	瑞浪市立瑞浪北中	工藤 陽子	特別支援	
羽島市立正木小	野田 宙正	道徳	組合立東安中	浅野 孝介	社会	恵那市立恵那西中	水野 雄午	特別支援	
羽島市立竹鼻中	金澤 信明	理科	揖斐川町立揖斐川中	松浦 亮太	管理経営	中津川市立南小	中島 芽衣子	国語	
各務原市立那加第二小	苅谷 吉保	社会	関市立南ヶ丘小	後藤 正行	その他	中津川市立東小	鈴村 友浩	外国語	
各務原市立蘇原第一小	中村 克範	特別支援	関市立富野中	片桐 紀子	外国語	高山市立北小	福山 勇希	算数	
各務原市立蘇原中	野々村 直也	数学	美濃市立美濃中	佐藤 秀行	理科	下呂市立馬瀬小	熊崎 恵子	国語	
本巣市立一色小	小川 留美子	外国語	郡上市立吉田小	武藤 恵里佳	外国語	下呂市立萩原北中	今井 鉄也	管理運営	
笠松町立松枝小	堀田 萌子	外国語	可児市立広見小	金田 ルツ紀	外国語	白川村立白川郷学園	澤之向 達也	その他	
北方町立北方小	小縣 真祐美	国語	白川町立黒川小	長島 樹里	健康安全				
大垣市立多良小	三宅 明子	健康安全	白川町立佐見中	今井 慶太	音楽				

新人賞（24編）※主題・副題は省略して紹介します。									
岐阜市立明郷小	遠藤 瞳	特別支援	神戸町立神戸中	藤野 友香	社会	八百津町立和知小	加藤 万結	健康安全	
各務原市立那加第一小	郷 友里恵	算数	輪之内町立大藪小	舩中 はるな	理科	多治見市立精華小	小川 将弥	理科	
山県市立高富中	辻田 紗希	人権教育	揖斐川町立北方小	小川 七彩	健康安全	土岐市立西陵中	水口 雅貴	保健体育	
瑞穂市立穂積小	岡部 美来	学級経営	揖斐川町立揖斐川中	柳瀬 芽以	外国語	瑞浪市立日吉小	篠原 諒	社会	
笠松町立笠松中	養 梨絵	美術	美濃市立牧谷小	山下 紘矢	社会	恵那市立大井小	中田 寛乃	体育	
大垣市立時小	宮尾 真由	健康安全	郡上市立高鷲北小	古田 菜那	健康安全	中津川市立苗木小	岡島 佑樹	学級活動	
海津市立大江小	三品 智也	体育	美濃加茂市立太田小	富村 安未	算数	高山市立北小	佐竹 祐里香	理科	
養老町立養北小	老田 達弥	体育	美濃加茂市立伊深小	中井 智大	総合学習	飛騨市立古川小	中村 幸智	特別支援	

第37回教育実践研究論文の優良賞・新人賞の主題・副題は、
同窓会ホームページよりご覧いただけます。



新人先生奮闘記

高山市立東小学校教諭 美濃羽 正貴

平成 29 年度 数学教育講座 卒業



担任として子どもたちに最初に話したことは何でしょうか？

私が学級開きで子どもたちに話したことは、「やってみるということを大切にしてほしい」ということです。それは、子どもたちにできたという嬉しさや喜びをたくさん感じてほしいと考えたからです。東小学校で勤務を始めた年は、新型コロナウイルス感染症が流行し、前年度末から5月まで休校となった年でした。子どもたちは長い期間学校生活から離れ、今まで当たり前にできていたことが簡単にできなくなりました。このような生活の中でも様々な経験をし、こんなことができるようになったと喜びのある充実した日々を過ごしてほしいと思いました。実際に、一年を通して生活のいろいろな場面で「きっとできるよ！やってみよう。」と言い続けたところ、子どもたちも前向きに活動に取り組んでくれたと思います。

教員として必要な力は何でしょうか？

「子どもの思いに気づく力」が必要だと思います。私が担任をした学級の中に、授業をしていると他の子にちょっかいをかけたり暴言を吐いて飛び出したりする子がいました。行動だけを見ると不真面目に見えますが、その子の行動をよく観察したり落ち着いて話をしたりすると「自分の意見をきいてほしい」と知らせただけだと分かりました。そこで、適切な声のかけ方をいっしょに学習することで、話を聞いてほしいと伝えられるようになりました。どの子にも適切な支援をするためには、子どもの行動だけでなく行動に隠された考えや思いに気づくことが必要だと感じました。今は、いつもより丁寧な字で文章を書く、授業の準備を早めにするなどの子どもの頑張りを見つけた時は、行動を褒めるだけでなく、その子がどんな思いでその行動をしたのかという思いを褒めるように心がけています。

保護者との会話で気をつけていることはありますか？

「子どもの素敵な姿をできるだけ具体的に伝える」ということです。懇談の時など事前に分かっている場合は、可能な限り実際に子どもが頑張っているノートやそのときの写真や映像などを用意するようにしています。最近は新型コロナウイルス感染症によって参観日や学校行事が中止になることも少なくないので、直接見ることができなかった分も伝えられたらいいなと思っています。また、保護者の方と話をした翌日に「〇〇のことでたくさん褒めてもらったよ」と嬉しそうに報告してくれる子もいるので、自分にとっても嬉しいことです。

後輩の岐阜大学生へ贈るメッセージをお願いします。

教員はブラックだという言葉がニュースで聞くことがあります。実際に教員になってみて、プレッシャーを感じることもあれば多忙だとも思うこともあります。一方で、その分のやりがいがある職業だとも思います。たとえ同じ内容の授業をやったとしても、クラスや年度が違えば反応も違います。子どもの数だけの新しい発見や喜びがある楽しい職業だと思います。

在学中は将来について不安に感じることもあると思いますが、今やりたいことを全力で楽しんでください。勉強や遊びにバイトなど、あのときこれをしていてよかったと思う場面が必ずやってくると思います。皆さんと一緒に働ける日が来ることを楽しみにしています。





岐阜市立長良西小学校長

久保田 尚志

昭和 64 年度 技術職業学科 卒業

今のお仕事について教えてください。

岐阜市立長良西小学校の校長をしています。

金華山がすぐ目の前に見えて、壮大な気持ちになれる、そんな環境に恵まれた学校です。近くには、道三塚や織田信長公ゆかりの崇福寺があり、岐阜メモリアルセンターへも徒歩数分で、歴史と文化が感じられる場所に立地している学校です。

岐阜大学で学んだことが役に立っていると感じることはどんなことですか？

特にはないというのが本当のところでは。

「単位をとるのに必死だった学生時代」が懐かしいですが、大学で学んだことが直接的に教員の仕事に役立ったという感覚はありません。

大学4年生の頃には、教育実習が小学校、中学校と連続しており、目が覚めたというか、学生気分は吹っ飛びました。「教師になるのもいいかも。」と気付いたのが、教育実習でした、そのくらいですね。

ただ、国立大学っていうのはいいですね。今でも思い出すのは、卒業論文の取組です。自分で文献をあさって、実験装置を自作して、何度も何度も夜中に実験を繰り返した日々が忘れられないです。たいした研究をしたわけではありませんが、ちゃんと卒業論文らしいものを残すことができました。これが、私立大学だとそういうわけには

いかない場合があるそうです。ゼミが無い、ゼミに入らなくても卒業できるという大学も多いと聞いています。その点、できの悪い学生でしたが、多くの先生方に指導していただいて、卒業論文の取組にどっぷりはまって取り組めたことは、その後の人生の大きな糧となっています。

岐阜大学卒業後に新たに学んだことや、学び直したことはありますか？

教員生活では、日々学んでいます。

特に特別支援教育については、今でも学び直している最中です。研修会等で、ある程度理解はしていても、実際に指導にあたるとまったく違います。問題は山積していて、課題も多く、どう解決していけばいいのか、休日にドクターを交えた勉強会にも参加して、学んでいます。おかげさまで、現任校は、若くて探求心旺盛な先生ばかりですし、特別支援教育にも、常に貪欲に取り組んでいます。その日にあったことを振り返り、次にどうするとよいかについて、毎日、ミーティングしています。

後輩の岐阜大学生へ贈るメッセージをお願いします。

ぜひ、教師になってください。

学校の先生という仕事は、昨今、巷では「ブラックな仕事」と言われていますが、「じゃあ、本当に後輩に勧められない職業なのか？」と問われれば、「N O.」と答えます。

そりゃ、人に関わる仕事ですし、授業

ひとつとっても準備が大変ですし、急な生徒指導、懇談があるのは当然で、毎日が大変なのは当たり前です。けれども楽しい、そんな感じの仕事だと思います。当然『やりがい』はあるし、情熱を傾けるには十分な仕事です。また、学校という組織に所属していても、個人事業主みたいな感覚もあり、常に自己判断が求められる仕事で、型にはまっているような日常ではありません。子どもは輝いていますし、成長していく過程が頼もしいです。ぜひ、採用試験にチャレンジしてください。





SHOWROOM 株式会社

横山 寛和

平成24年度 理科教育(物理) 卒業
平成26年度 総合教科教育専攻(カリキュラム開発コース) 修了

今のお仕事について教えてください。

ITエンジニアでコンピュータ・ソフトウェアを開発する仕事をしています。岐阜大学卒業後、ヤフー株式会社に入社し、アパレル系スタートアップ企業を経て、現在はSHOWROOM株式会社というライブ配信サービスを運営している会社で働いています。これまで複数の新規サービスの立ち上げを行い、システムの開発・改修・運用を行っています。コンピュータプログラミングをするだけでなく、サービスの仕様決めやシステム設計、運用保守まで携わっており、刺激的な日々を過ごしています。

岐阜大学でどんな研究を行っていましたか？

学部では、物理学科で原子核物理学の研究室に入りました。粒子の性質を観測するために専用の顕微鏡の制御システムを作り、博士課程の先輩と画像処理をしたことが記憶に残っています。また在学中に震災があったこともあり、放射線や原子核の仕組みについて本物の加速器を見学するなどして学んだことは印象に残っています。

大学院では、カリキュラム開発や教育工学を学ぶ一方で、Kinect(深度センサ)を使った博物館施設等の来館者の同線追跡を試みました。

サークル活動ではロボコンに参加し、工学部の学生と一緒にロボットの製作をしていました。教育学部棟で授業を終えたら、工学部棟に直行し、ロ

ボットの機械加工や電子回路製作、組み込みプログラミングに夢中になって取り組みました。

岐阜大学で学んだことが役に立ったと感じる時はありますか？

カリキュラム開発や教科教育法の講義では授業設計について学びました。教職の方からすると当たり前かもしれませんが、授業設計では学習者がたどり着くべきゴールから学習者の実態を踏まえ課題を設定し、課題を達成するための工程を考えます。授業後には確認テストなどを通して学習者の達成度合いを調査します。実習中の指導案作成を含め、何度も考えた授業設計のフレームワークは、現在の仕事でも活かしているように感じます。

ソフトウェアの仕様を設計する時も、「利用者にどんな課題解決・体験を提供するか？」というコンセプトを最初に考えます。スマホアプリをはじめほとんどのソフトウェアは、僕らに日常生活や仕事で課題解決を提供してくれます。また、エンタメアプリであれば課題解決はしないかもしれませんが、楽しい体験を提供してくれるでしょう。

そのため、サービスの立ち上げや機能改修を行うときには、対象の利用者を定性的・定量的に分析し、利用者が持っている課題を熟考した上で、提供する課題解決や体験をソフトウェア仕様に落とし込みます。そしてエンジニアの立場からそれを実現するためにシステム設計・運用設計を考えつつ

開発を進めます。この時に課題設定が曖昧だとソフトウェアが提供する価値にブレが出てきてしまい、なかなか良いアプリになりません。特に初回リリースの段階では、本来あるべき機能の全てを開発することが難しいので、優先順位を付けて提供する機能を絞って開発を進めます。このとき「利用者にどんな課題解決・体験を提供するか？」をよく考えて優先順位付けを行います。また、リリース後も利用者の利用状況を定性的・定量的に分析した上で機能追加を検討しています。対象が児童生徒からアプリの利用者に変わってはいるものの本質的には同じ事をしているのではないかと感じています。

後輩の岐阜大学生へ贈るメッセージをお願いします。

「面白そう！」と思った純粋な気持ちを大切にぜひ夢中になって取り組んで欲しいと思います。

また、教養科目も含めて「面白そう！」をたくさん見つけて欲しいです。意外なところでつながるかもしれません。そして大学は学ぼうと思えばとことん学べるし、遊ぼうと思えばとことん遊べると思います。でも、学ぶにせよ遊ぶにせよ自分から動かないと何も出来ません。ぜひ積極的に動いてよく学びよく遊びましょう。





学校法人浅野学園 いづみ中央幼稚園

園長 浅野 教史

平成8年度 技術職業学科 卒業

今のお仕事について教えてください。

30歳を機に、家業であった「幼稚園」を継ぐため、卒業から7年勤めた岐阜県の教員を退職し、幼稚園に就職しました。中学校・小学校という教育現場から、更にもう一つ前の幼稚園という所で、より小さな子どもたちと出逢うこととなりました。

もともと、将来のビジョンとして、幼児教育が視野にあったため、小中の教員をしながらも、幼児期からの育ちにも関心があり、ある意味、子どもたちの育つ成長過程をイメージできるよいチャンスだと考えて、教員生活を送っていました。

幼児教育に関わって5年が経つ頃、岐阜市の保育所民営化の話が持ち上がり、更に小さな0・1・2歳という子どもたちへの保育にも関わりたくなり、平成21年から、新たに社会福祉法人を立ち上げ、保育園・認定こども園の運営にも携わるようになりました。現在は、学校法人の幼稚園園長、社会福祉法人の理事長として認定こども園の経営をしながら、就学前の子どもたちの保育に関わっています。

少年期以降の問題行動の要因とされる一つに、この乳幼児期の育ちが関わると言われています。この乳幼児期が、将来にわたる人格形成の基礎を育む時間であるならば、子どもたちが、その後の人生を豊かに生きるために何らかの手助けができたらと願いながら、日々、頑張らねばと思って過ごしています。

岐阜大学でどんな研究を行っていましたか？

江馬諭先生のご指導のもと、卒業研究では手巻きウインチの作図支援を行うCAI教材の開発に取り組みしました。開発した教材を先輩が勤務されている中学校で実際に使ってもらったことが記憶に残っています。

岐阜大学でどんな学生時代を送られましたか？

行動範囲が大きく広がり、様々な経験が出来た学生生活であったと思います。大学では、サークル活動など、別段何かをしたという思い出はありません。ただ、友人たちと、車で夜通し遠出して、いろいろなところに遊びに行った良き思い出はたくさんあります。

学生時代の4年間は、様々なバイトも経験し、接客・塾講師などの経験は、社会人になってからの、大きな力になったと思います。

あと、冬場の事です。休講等で時間が空くと、時間帯によっては、昼からの数時間、郡上のスキー場に行ってスキーをしていた記憶があります。スキーをして、最終の講義に間に合うように戻っていました。それに付き合ってくれる仲間がいたことが良かったように思います。

岐阜大学で学んだことが役に立ったと感じるときはありますか？

実技系の学科で、実際に「つくる」という経験を出来たことが良かったと思います。

記憶にあるのは、折りたたみ機の製作でしょうか。鉄板曲げ・溶接等、行程の一つひとつ体験し、決して立派なものではないのですが、出来た時の満足感は、それなりにあった記憶があります。バーチャル体験では、様々な経験が出来る良さもありますが、折りたたみ機が出来た時は「教育において実体験に勝るものはない」と自身で実感できた瞬間であったように思います。

後輩の岐阜大学生へ贈るメッセージをお願いします。

大学生活は、人生において、一番自由で、何にでも果敢に挑戦できる時なのかもしれません。月並みですが、そういう意味では、興味をもてる事があるならば、結果を恐れず、まずは「やってみる」事をお勧めします。絶対に、良くも悪くも、人生の糧になると思います。



各学科同窓会の活動

事務局より原稿依頼を行い、原稿が届いた学科のみ掲載しています。

地学

担当者：安藤 亮
連絡先：土岐市立西陵中学校 ☎0572-57-7195

◇同窓会・研究会活動

○「地学年末研修会」の参加

【期日】令和3年12月29日

【会場】岐阜市立黒野小学校

【内容】実践交流会、研究会など

令和3年度も若手の先生だけでなく、ベテランの先生方、ご退職された先生方からの多くの実践や研究結果の発表をしていただきました。



	発表の先生	発表の主旨や内容
第1部	初任～2校目の若手の先生	日々の授業実践や研究授業での実践報告、開発した教材や作成した指導案を資料として提示し、実践の成果を発表しました。ベテランの先生方から多くのアドバイスをいただく機会になっています。
第2部	中堅で活躍されている先生	授業実践だけでなく、ICT活用実践例の紹介など様々な取組について報告がありました。
第3部	ベテラン～各方面で活躍されている先生	岐阜県の地質に関する情報、天体に関する様々な取組など、多方面にわたる理科に関する活動について参観者が大変勉強になる機会となりました。

※毎年、12月29日に開催しています。参加していただける方は、事務局まで連絡をお願いします。

音楽

担当者：杉本 公彦
連絡先：岐阜市立早田小学校 ☎058-231-1319

今年度も新型コロナウイルス感染症への対応に十分配慮をしつつ、以下のような活動を行ってきております。

(1) 卒業生対象に同窓会入会説明会

2021年12月17日、棚橋会長と杉本理事長が、音楽棟で入会説明会（内容は同窓会の組織や活動内容の説明、理事の確認、名簿の作成等）を行いました。

(2) 卒業記念コンサートを応援

2022年2月11日に同窓会役員が、サラムンカホールで実施されました卒業記念コンサートのリハーサルに伺いました。コロナ禍で観客の入場制限が行われる中でしたが、皆さんの思いがホールいっぱいに響き渡る、素晴らしい演奏会でした。例年同様に同窓会からお花を贈呈させていただきました。

(3) 同窓会総会について

今年度（令和4年度）は同窓会総会及び懇親会の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、令和5年度への開催延期を決定しました。このことに伴い、例年同窓会総会及び懇親会の開催年度に発行しております会報「間」につきましても、同様に令和5年度に発行延期とさせていただきます。楽しみにしていただいております会員の皆様におかれましては、大変申し訳ございません。令和5年度の開催につきまして、今後の新型コロナウイルス感染症の状況により、引き続き検討をしていきます。



体育

担当者：清水 康孝
連絡先：本巣市立本巣中学校 ☎0581-34-2045

令和4年度の体育学科同窓会総会・還暦お祝いの会・懇親会は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえ、中止としました。

史学

担当者：山元 祐介
連絡先：山県市立美山中学校 ☎ 0581-52-1213

「史明会」総会の開催

【期 日】令和4年8月20日(土)

【会 場】ホテルグランヴェール岐山

(1) 総会

15名の同窓会員が参加し、新役員の紹介、事業報告、会計報告を行いました。また、事業計画を討議し、次回の総会は2年後の令和6年8月に開催することが承認されました。

(2) 講演会

関ヶ原町歴史民俗学習館 館長の飯沼暢康先生をお招きし、「東西の分かれ目 関ヶ原」と題して講演をしていただきました。講演では身近な事例を挙げながら、日本が原始の時代から関ヶ原付近を境に様々な面において東西に分かれていたことをお話しいただき、身の回りにある地域の事象を見直すことの意義について思いを新たにしました。



※ 次回の史明会総会及び講演会は、令和6年8月に開催します。多くの皆様方のご参会をお待ちしております。

数学

担当者：堀江 尚暢
連絡先：岐阜市立陽南中学校 ☎ 058-274-0055

(1) 本年度の活動

○「わしょう会」総会の紙面開催(令和4年度5月)

コロナ禍をふまえ、令和4年度・5年度の活動については、理事・運営委員で検討し、紙面提案をもって総会の決議とさせていただきます。

○数学科卒業予定者に対する、数学科同窓会「わしょう会」の組織・規約等の説明(令和5年度1月予定)

○「わしょう会」役員会の実施と、来年度以降の計画の立案(令和5年度1月予定)

(2) その他

○「わしょう会」夏季研究会について(令和5年度8月予定)

令和5年度は大垣市での開催となります。西濃地区の会員の方を始め、ぜひ多くの会員の皆様にご参会いただきますようお願いいたします。

美術

担当者：清水 也人
連絡先：県教育委員会教育研修課研修第二係 ☎ 058-271-3456

(1) 支部長(副会長)会

・実施日：令和3年11月20日(土)

・議 題：「相互の連携・連帯意識を高めるために」

副会長の皆様と事務局で議題について有意義な集合会議が行われました。少人数の機動性あるつながりやDX化等、コロナ禍であっても岐阜県造形教育の灯火を強くする一歩を踏み出す機会となり、以下(2)(3)(4)を中心に「岐阜県造形活動DX」を開設しました。

(2) B A N D 「岐阜県図画工作・美術研究会」グループ

・開 設：令和4年1月 →随時会員募集・更新中

スマホ・タブレット等から「図画工作・美術」で気軽につながる場をつくり(R4.8月現在150名程)、随時内容を更新しながら相互の連携・連帯意識を高めています。

(3) 造形教育関係者向けホームページ「岐阜図工・美術NET」

・開 設：令和4年4月 →更新中

・URL： <https://gifu-zukou.net>

県造形教育実践を県内外の造形教育関係に発信・交流する場をつくり、県造形教育の活性化、相互の連携・連帯意識を高めています。

(4) 岐阜県造形連盟ホームページ『ぎふ美術のかぜ2』更新中

・URL： <http://www.ccn.aitai.ne.jp/~ttms/>

【造形活動報告先】(HP管理人：鬼頭立城)E-mail: gifu-zokei@yahoo.co.jp

同窓生相互の連携と連帯意識を高めるため、そして、美術文化及び美術教育の振興を図っています。同窓生の皆様には、ぜひ造形活動をご報告願います。

(5) 令和4年度 同窓会入会式

・実施日：令和4年2月20日(土)

第70回卒業・修了制作展後、岐阜大学美術棟にて行いました。



岐阜県図画工作・美術研究会

本会は以下の方をメンバーにした、気軽に「図画工作・美術」でつながる場です。

QRコードをスキャンして参加しよう！

各学科同窓会事務局連絡先

学科	担当者	事務局連絡先	電 話
国語	丹下 侑輝	500-8482 岐阜市加納大手町74	岐阜大学教育学部附属小中学校 058-271-0320
史学	山元 祐介	501-2257 山県市富永64	山県市立美山中学校 0581-52-1213
地理	坂口 亨	503-0851 大垣市禾森1-1	大垣市立安井小学校 0584-78-2762
法経	丸山 靖生	500-8570 岐阜市荻田南2-1-1	岐阜県教育委員会 学校安全課 058-272-1111
哲学	井上 達也	500-8570 岐阜市荻田南2-1-1	岐阜県教育委員会 教職員課 058-272-1111
数学	堀江 尚暢	500-8353 岐阜市六条東1丁目1番1号	岐阜市立陽南中学校 058-274-0055
物理	竹腰 宣行	509-1302 加茂郡東白川村神土647-4	東白川村立東白川中学校 0574-78-2014
化学	馬淵 勝弘	503-2392 安八郡神戸町神戸1111番地	神戸町教育委員会 0584-27-0181
生物	高橋 亮	500-8482 岐阜市加納大手町74	岐阜大学教育学部附属小中学校 058-271-0320
地学	安藤 亮	509-5301 土岐市妻木町1513-1	土岐市立西陵中学校 0572-57-7195
音楽	杉本 公彦	502-0841 岐阜市学園町2-35	岐阜市立早田小学校 058-231-1319
美術	清水 也人	500-8384 岐阜市荻田南5-9-1	岐阜県教育委員会 教育研修課 058-271-3456
体育	清水 康孝	501-1203 本巣市文殊120	本巣市立本巣中学校 0581-34-2045
技職	磯谷 直毅	500-8482 岐阜市加納大手町74	岐阜大学教育学部附属小中学校 058-271-0320
家政	高松 一恵	501-0222 瑞穂市別府1888	瑞穂市立穂積中学校 058-327-0733
英語	市村 一	503-0008 大垣市桑田町6丁目60番地	大垣市立星和中学校 0584-75-2660
教育	安田 和夫		

着任教員のご紹介

令和4年4月1日をもって、
着任された教員は次の通りです。

古 賀 英 一	特任教授	教職実践開発専攻 (管理職養成コース)
---------	------	------------------------

退職教員のご紹介

令和4年3月31日をもって、
退職された教員は次の通りです。

今 井 一	教授	保健体育講座
緒 賀 聡 志	教授	学校教育講座
池 谷 尚 剛	教授	特別支援教育講座
石 川 英 志	教授	教職実践開発専攻
村瀬康一郎	教授	学習協創開発センター
足 立 慎 一	特任教授	教職実践開発専攻

編集後記

「Coda コーダ あいのうた」という映画を観ました。父親と母親と兄の3人は音がきこえません。主人公である妹だけが音がきこえます。映画はこの家族のお話です。Coda (コーダ) というのはChildren of deaf adults (聞こえない両親を持つ子ども) の頭文字語です。主人公が日々の生活の中で抱える複雑な思いは、家族にも友達にも理解してもらえません。もちろん、学校の先生にも理解してもらえません。主人公は授業に毎回遅刻をしてしまい、先生から強く注意を受けます。なぜ主人公が毎回遅刻をするのか。主人公には解決しようのない環境があるのです。

「〇〇できない」という子どもの姿を見た時に、その子どもにのみに原因を求めるのではなく、「できない」の背景に何があるのかをしっかりと理解し、その上で言葉がけをすることの大切さを教えてくれた映画でした。「きょうだい児 (病気や障がいのある子どもの兄弟、姉妹のこと)」や「ヤングケアラー」という言葉が少しずつ広まっています。多様な背景をもつ子どもたちへの理解が広まることを願っています。

まだまだマスクのない日常は戻っておらず、各学科同窓会の活動も対面での開催ができていない状況があります。対面で語り合うことが難しい状況が続きますが、同窓会報を通して、同窓会の皆様の心の距離をそっと近づけ、同窓会を想う時間を作ることができればと思っております。

(広報部会 鈴木祥隆)

同窓会報第28号の表紙

《六角厨子》

田中太一朗 (美術教育講座4年)

漆で塗られた黒い厨子。

この厨子は二段構造になっており、下段には3枚の絵が入っています。その1枚が、表紙の空から舞い降りた巨人の姿を描いたものになります。

逗子は、木地に釘を一切使わず、木材を差し合わせることで作られる指物によって作られています。

また、漆による塗装は、埃の付着を許さず、何度も塗り直すことで、その美しさを追求しました。

岐阜大学 教育学部同窓会報



岐阜大学同窓会報第28号

発行日 / 令和4年12月発行

発行者 / 矢嶋 英敏

発行所 / 岐阜大学教育学部同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

TEL : 058-293-2344 (平日10時~15時)

FAX : 058-293-2343 (24時間)

E-mail : kyo_doso@gifu-u.ac.jp

岐阜大学教育学部同窓会ホームページ
<https://gifudai-kyodoso.jp/>

